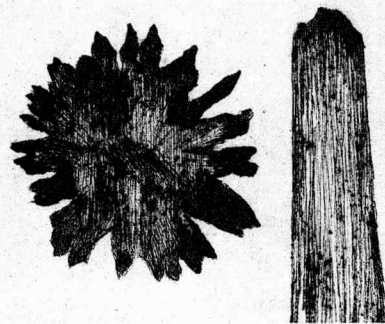


歌壇 俳壇



〈ガーベラとマンション〉

岩尾恵都子

◆大申 草選

- 豆撒かぬ家増え鬼の高笑ひ (伊丹市) 保理江順子
一村を一色に染め深雪晴れ (前橋市) 荻原 葉月
オリオンを見つけ詩心動きだす (名古屋市) 後藤 素子
天平の響に今日の初しぐれ (奈良市) 田村 英一
空き家からボーイソプラノ冬木立 (東京都世田谷区) 田中 和行
冬田道昭和の歌を唄ひつ (東かがわ市) 桑島 正樹
古民家の縁で推敲日脚伸ぶ (多摩市) 倉林 浩一
カビバラの瞑想をする初湯かな (長岡市) 柳村 光寛
風花や坂ある街の今むかし (倉吉市) 尾崎 慎雄
☆日向ぼこ昔漁師の翁五人 (いわき市) 吉田 恵

【評】第1句。近年、豆撒きをする家庭が減少し、「福は内 鬼は外」の声も少なくなった。第2句。空は青青と晴れ渡り、地上は白一色の雪景色。うっとりと思える。第3句。凍空に煌めくオリオン、そこからどんな詩が生まれてくるのか。

◆高山れおな選

- 大とんど空を焦がして崩れけり (加古川市) 森木 史子
関ヶ原の薄氷叩く光りあり (大和市) 荒井 修
明恵忌や人類かつて木より降り (大津市) 星野 暁
土竜打つ彼の迷宮の地下組織 (始良市) 榊 秀樹
曳猿や玉乗り済めば空眺め (長崎県波佐見町) 川辺 酸模
おとなりは木彫教室初句会 (下関市) 内田 恒生
引退の電車が走る冬の海 (川崎市) かとうゆうき
淡々とシナリオのなき年迎ふ (名古屋市) 後藤 素子
孤独とはダイヤに似たり春の闇 (茅ヶ崎市) 栗山 晃
大寒の平凡な山登りきり (茨城県阿見町) 鬼形のふゆき

【評】森木さん。とんど火のみならず、空そのものが崩れてくるような迫力。荒井さん。薄氷がきらり、又きらり。〈叩く光り〉は簡単には出てこない表現だ。星野さん。人類が捨てた樹上で瞑想する明恵上人。その姿を描いた肖像画は国宝だ。

◆小林貴子選

- 口紅を塗りすぎのご木瓜の花 (あま市) 野田 朱美
ドラム缶の鐘は伝へる阪神忌 (南足柄市) 吉澤フミ子
冬の夕小鬼の如く犬の影 (岸和田市) 小林 凛
イチローの腕振す真似て春を待つ (東京都江戸川区) 高木 靖之
初場所や豊昇龍の面構 (芦屋市) 正井 健一
雪合戦みんなが投げる危険球 (相模原市) 芝岡 友衛
冬の三日月手を差し伸べてくれなにか (広島県熊野町) 中村 竜哉
排雪を呑み込みでかき陸奥湾よ (青森市) 天童 光宏
賀状読み逢ひたくなりて逢ひに行 (愛知県東郷町) 有元 洋剛
水仙花通り過ぐまで我を向く (豊橋市) 近藤 隆三

【評】一句目、木瓜の花の赤色はほってり重い。比喩に力のある句。二句目、阪神・淡路大震災から三十年、忘れず伝えたい。三句目、耳がぴんと立った犬のシルエットが可愛い。四句目、打席に立ち、腕まくりするような仕草でやる気を出す。

◆長谷川權選

- 宙に浮く力士の巨体春を待つ (神戸市) 倉本 勉
着ぶくれてごこん朝日新聞嫌ひなり (栃木県壬生町) あらあひとし
ヒアシンスハウスで暮らす老後かな (筑紫野市) 二宮 正博
煩惱も磨けば光る龍の玉 (尼崎市) 吉川 佳生
冬されや民主主義にも独裁者 (日進市) 松山 真
大國の自国第一主義凍ゆ (広島市) 瑞木 綾乃
☆日向ぼこ昔漁師の翁五人 (いわき市) 吉田 恵
ウエルズは麦踏み農夫彼方此方に (東京都世田谷区) 松本 長勝
鱧ふもの皮いち枚と成なる冬木 (玉野市) 勝村 博
三七七六雪の富士の座高 (岐阜県揖斐川町) 野原 武

【評】一席。何と！ 土俵という不思議なパワーサークル。二席。「時々居酒屋で会う人」と前書き。思想信条は自由。三席。詩人の立原道造が設計したヒアシンスハウス。幻の小さな家。十句目。ほめ方は人それぞれ。それでこそ富士山。

うたをよむ 残り物たる僕たち

花山 周子

死んだ後つけられたから戒名であろう
マンモスの名前の「ユカ」は
『アキレスならば死んでると』
およそ四万年前の永久凍土から発見さ
れたマンモスに人は名前を付けた。それ
が「戒名」と言い換えられるとき浮き彫
りになる人類の独善性が印象的だ。
ヒトという毛のなき獣の腕を見る猫よ
り採血むきたと思ふ
久永草太『命の部首』
作者は獣医師。様々な動物の採血をし
てきてふと改めて毛のない人間の腕が発
見される。
どちらも昨年刊行された若い世代の歌
集から引いた。共通するのは動物目線か
ら人類が観測されていることである。
ひと足早い人類滅亡だと思ふ高に覆わ
れる水再生センター 川島結佳子
死が暗く怖い僕らの質量は超新星にな
るには足りず
久永草太
これらの歌ではSF的な視座そのもの
が身近に差し迫ったリアリティーがあ
る。人類の滅亡が目前に据えられている
といつてもいい。
昨晚の残り物たる僕たちを温めなおし
てください、朝日
久永草太
コロナの流行や地球温暖化、戦争、災
害といった事態が次々に押し寄せる世界
を、わたしたちは個人としてどのように
感覚することが出来るか。宇宙規模のス
トリートビューからわたしたしの存在を観測
するような彼らの作品は、人類的失意が
個人に及ぼす「人類の小ささ」という自
覚をシリウスに突き付けているように思
う。
(歌人・装幀家)

川野里子著「短歌って何?と訊いてみた
川野里子対話集」 哲学者・納富信留、小説家・
三浦しをん、民俗学者・赤坂憲雄ら多ジャンル
の15人との対談を収録。(本阿弥書店・2750円)

◇朝日歌壇 入選取り消し 1月26日付の歌壇に
掲載した「君だけの俺であるよと良くもまあ言ひし
あの時繡梅の花」は二重投稿でしたので、入選を取り
消します。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録
し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表
の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。
郵便での投稿は無地のほかき1枚に1作品、横
に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661
晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、
俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき
ます(週に2作品まで)。QRコードから。

